

MJIIT 短期留学プログラム報告書

理工学部 電気電子生命学科 3年
(プログラム参加時)

櫻井 志

1. プログラム志望理由・目的

今回 MJIIT 留学プログラムに志望した大きな理由・目的を三つ紹介します。

一つ目は、英語の使用です。この先英語をツールとして使用していくにあたり、日本で英語自体の学習は可能でも、なかなか英語をツールとして使用することができていないのが現状でした。MJIIT では、工学を英語で学ぶことができるということで、今の自分に適した英語の使用法ではないかと考えました。

二つ目は、海外の友人を作ることです。親の仕事の都合で小学生から中学生にかけ数年間の海外居住経験はあったものの、当時は深く考えることもなく、現在、現地の友人とのつながりが切れてしまっています。しかし今では非常に勿体ないことであると感じていました。今回の留学では新しく海外の友人を作り、留学後もつながりが続くようにすると決めておりました。

三つ目は、マレーシアの文化、産業を見ることです。多文化国家であるマレーシアの文化はとても興味深いと感じていました。また、急成長を遂げているマレーシアの産業の発展を、実際に現地に足を運び、町の雰囲気を見ることによって感じるのではないかと考えました。

2. プログラム中の学修内容

MJIIT では授業と研究室での輪講に参加させていただきました。

授業は英語で行われており、現地の学生にとっては、そのことが当たり前でした。逆にある友人の学生に、日本では日本語で授業を行っていると伝えると、驚いた友人もいました。また Artificial Intelligence の授業では、AI を用いたシステムの例として、ハラル認識のシステムを例に挙げており、マレーシアに来たからこそ授業で聞いた話だったのではないかと、非常に興味深く感じました。

研究室の輪講では、まだ私自身本格的な研究が始まっていないため、帰国後本格的に開始する研究について紹介することにしました。このプレゼンテーションを行うにあたって、自分の研究について勉強し、英語でまとめ、伝えるという、自分にとって非常に良い機会だったと感じております。実際に一度目のプレゼンではいくつかの質問をいただいたのですが、勉強・英語力不足で思ったように返答できなかったという経験もしました。二度目のプレゼンに向けては、この経験をモチベーションにして、一層勉強が捗ったのではないかと感じております。

3. 課外活動・現地活動

平日の昼食は毎日キャンパス内の学食で食べていました。そして昼食の時間は、現地の学生の友人と、様々な話をする時間でもありました。

宗教の話では、友人だからこそ気兼ねなく様々な質問をすることができ、友人も、あまり公表されている

ことではないと言いながらも、快く答えてくれました。友人の中でも宗教の規律に従っている度合いは異なっていました。話を聞く限り、やはり軸となる部分は共通しており、その部分についての考え方は変わらなかったように感じました。

言語の話題では、日本語、英語、マレー語などの違いについて話したことが印象に残っております。日本語を勉強している現地の学生にとって、やはり敬語は難しいようで、特にスピーキングの際に敬語を使おうと思うと言葉を出す前に考える時間が必要になるという話を聞きました。更には日本の文化が反映されている日本語について話した時にはなかなか理解してもらえませんでした。

夕食はマレー系、中華系、インド系のレストランに、様々な友人と行きました。多種の料理をおいしく安く食べられるのは、マレーシアの魅力の一つでもあるのではないかと感じました。またバングラデッシュ人の友人には日本料理屋さんで日本の食文化を紹介し、後日バングラ料理屋さんでバングラデッシュの食文化を教えてもらいました。友人の一番のお気に入りガリだったことも印象的でした。

留学生のためのオリエンテーションプログラムやイベントに参加させていただいたときは、おそらく时期的な問題もあってか、自分以外はマスターコースの以上の方のみでしたが、本当に様々な国の人が集まり、刺激的でした。英語圏出身ではない方ばかりでしたが、全員が英語を話すことができ、これは日本語が公用語である日本の大学内では経験できないことであると感じました。

友人と旅行に行った際にも異国文化を感じることができました。ムスリムの友人と旅行に行ったので、中華料理屋さんに入れなかったり、バスの時間ぎりぎりにお祈りをしに行ってしまったりと、宗教の制約を感じることもあったのですが、自分にとってはこれらのこともムスリムの人のことを理解するいい経験ができたと思っております。

4. 今後の展望

留学中、英語力不足でコミュニケーションが思ったようにとれない経験を何度もしました。今後マレーシアで出会った友人が日本に来た時に、今回の留学期間以上にコミュニケーションをとるという目標をモチベーションとし、英語の学習を続けたいと思います。

また研究室の輪講でのプレゼンテーションは、今後の研究について勉強し、考える良いきっかけになりました。また英語でのプレゼンを行い、挫折も経験したため、この経験を生かして海外での学会発表をしたいという思いが強くなりました。

今回の留学でのマレーシア滞在が、初めての東南アジアの国に滞在する機会だったのですが、正直留学前は治安等不安もありました。しかし、今ではマレーシアが好きであると断言できますし、将来仕事で海外を経験したいという意志が自分の中で強固になったことは、自分の中でも大きな成長であると感じております。

留学中は同じ分野を学ぶ学生と友人になり、彼らから多くの刺激を受けました。いつの日か彼らと同じ舞台で社会に貢献できることを目指し、日々精進したいと思います。

今回のプログラムでは、本当に貴重な体験をさせていただきました。奨学金支援を頂いたローム・ワコー株式会社・吉岡洋介名誉会長に御礼申し上げます。またご指導いただいた明治大学特任教授・堀江正彦先生、関係者各所の皆様に感謝申し上げます。そして留学を後押ししてくれた家族、友人に感謝いたします。



放課後友人とバドミントン



日本食紹介



研究室の友人



ISC (International Students Centre) のイベント